



番町の町並みを守る会のメーリングリストにご登録いただきました皆さま：

1月31日に開催されました第7回日本テレビ通り沿道まちづくり協議会には、定員の110名を大きく上回る150名程の方々に傍聴にお越しいただきました。心より御礼申し上げます。

平日の午前中にも関わらず、これだけ多くの方々が参加されたことは住民の関心の高さを端的に示すものであり、千代田区としては無視できないものと思います。

*

協議会では、二番町町会長から同町役員として ①バリアフリー ②歩道の拡幅 ③広場の設置の3点を日テレと千代田区に要望したことを、また、日テレからは高さ未定の計画案と現行の地区計画の範囲内での計画案のパースの説明がありました。

その説明に対し、守る会、女子学院、グロービス経営大学院から、

- 1) バリアフリーの設置は、公共の電波を使用する企業として当然の振る舞いであり、PMO半蔵門ビルが設置できることがなぜ日テレにできないのか。
- 2) 歩道の拡幅は既に地区計画によって1,000㎡以上の敷地の場合、建物の外壁等から道路境界線までの距離を2m以上とすることが定められている。
- 3) パースはイメージ操作であり、しっかりと数値で示すべきである。
- 4) 先ずは住民の合意によって作られた地区計画の範囲内で考えるのが当然である。
- 5) スタジオ棟建設時に示された建物以外の土地（駐車場という説明だった）が、今回示された60m案ではなくなっているのはおかしい。

などの意見が出ました。

*

日テレ側のコンサルである山下PMCからは、5) に対し「スタジオ棟建設時に設定した敷地に隣接する再開発ビルは、通常、その敷地を除いて開発をするが、今回、規制緩和の制度を利用し、これを一体的に1つの敷地として設定し直した」という説明がなされました。

その他、日テレからは「150mは計画していない」という発言がありましたが、それを聞いた方の多くは、120や130mなら考えているのかという疑問が残ったものであったと思います。

また、千代田区からは配布資料として開発ボリュームに関する3パターンのボリュームスタディの説明がありました。



この資料は駅近接地、商業地、住宅地のモデル敷地ごとに地区計画改正が及ぼす影響などを数値化したものです。

この説明を受けて協議会の座長からは、この周辺の将来のビジョンをどう描きどう実現していくのか、この資料がたたき台になっていくと思うという見解を述べられました。

また、事務局（千代田区）より今後の進め方については一旦預かり、いただいた意見を踏まえ、来年度以降協議会をどうしていくのかを考えるとの発言がありました。

以上、長くなりましたが、第7回協議会のご報告とさせていただきます。

【ご参考】

千代田区の地区計画（地図上をクリック）

<http://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/toshi/toshikeikakuzu/tosikeikaku.html>

番町の町並みを守る会
事務局

<https://www.bancho-machinami.com/>